

日本の子供たちは他の国に比べ、自分に自信がもてない、いわゆる自尊心がとても低いと言われています。曾於市の子どもたちはどのような状況なのでしょう。

人権教育と自尊心

「人権」とは、人が生きていく上で、自由とそれぞれの幸せを追い求める権利です。人権教育はすべての教育の基本となるものです。

学校の人権教育で大切なことは「自分の大切さとともに、他者の大切さを認めること」です。そのため、自尊心を高めていくことが大切になってきます。

「自尊心」は、「社会的自尊心」と「基本的自尊心」の二つから成り立っています。

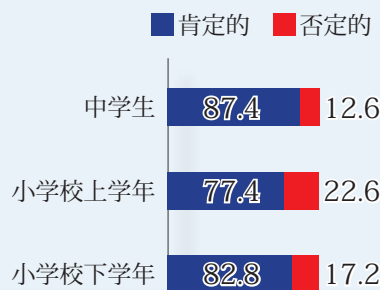
「社会的自尊心」は、他者から認められたり、認められたり成功体験を積んだりすることによって高まる感情です。しかし、失敗したり、叱られたりするとしぼんでしまう感情でもあります。一方「基本的自尊心」は、

成功や優越とは無関係に自分の良いところも悪いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として尊重する感情です。「ありのままがいい」「自分は自分だ」と無理なく自然に思える感情です。

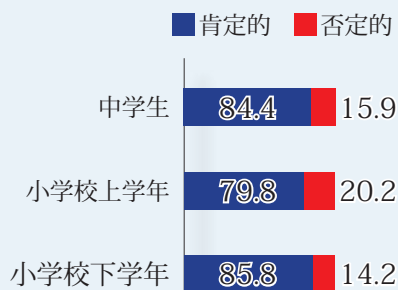
曾於市の子どもたちは…

自己有用感、自己有能感について

学校での活動で「よくがんばったなあ」と思うことがある。



自分の係などの仕事は、みんなの役に立っていると思いますか。

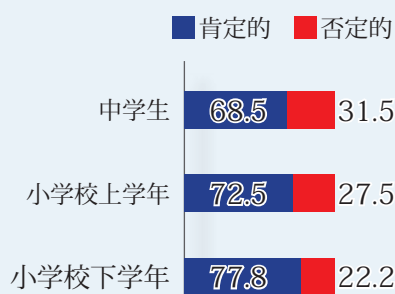


上のグラフのように、曾於市の子どもたちは、約8割前後が、学校生活の中で自分なりに頑張っているという感覚をもち、周りの役に立っているという捉え方をしているようです。

このように自己有用感や自己有能感を高めるためには、学校での教師や友達同士の関わりが大切であり、良好な仲間づくりが必要になってきます。

自己肯定感について

自分には、自分なりのよいところがあると思う。



右のグラフのように、7割前後の子どもたちが自分なりの良さを認めています。しかし、年齢が上がるにつれてその割合は少なくなっていることが分かります。その主な理由としては、

年齢を積み重ねるにしたがい、他者との比較をすることが多くなり、自分に自信をなくしてしまっていることが挙げられます。

市民みんなで育てよう！

自尊心は、生活体験や自然体験、異年齢活動などを通して育まれます。その中で、一人一人がその存在を認められ、尊重されることが大切です。

子どもたちが、将来にわたり豊かな人間関係を築くことができるようにするために、市民みんなが子どもたちの自尊心を育んでいきましょう。



※調査はすべて令和2年度「学校楽しいーと」（県総合教育センター作成）より